

教育やまなし

2012 (平成 24 年)

3

No. 238

◎特集 1 / 11 月 11 日開館！新県立図書館のオープンに向けた準備が着々と進んでいます

◎特集 2 / 高等学校進路指導研究推進校の取り組み

- いじめ・不登校問題の克服に向けて
- 中学校「武道・ダンス」授業の必修化に向けた取り組みについて
- 知られざる山梨県立博物館の活用法！
- 西高あーと展の開催について
- 県立博物館企画展「ウクライナの至宝展－スキタイ黄金美術の煌めき－」
- ミュージアム甲斐・ネットワーク／須玉美術館、歌舞伎文化公園
- らくがき 市川三郷町立市川小学校 澤谷 情 教諭
甲府市立北中学校 森 秀昭 教諭
- まいぶんイベント情報
- 学校紹介／県立かえで支援学校、上野原市立桐原小学校
- 総合教育センター情報／総合教育センターのホームページを活用しましょう！
- 県立図書館／「レファレンスの道具箱 山梨県の寺について調べる」
- 山梨の文化財／内船歌舞伎
- 主な行事予定



11月11日開館！新県立図書館のオープンに向けた準備が着々と進んでいます

— 新図書館建設室 —

◆新館長を迎え、十一月十一日開館！

甲府市北口二丁目に建設中だった新県立図書館の建物がいよいよ完成します。すでに建設場所とその外観を現しており、設備や内装の仕上げを行っているところです。

現在の図書館と比べて、新県立図書館は、延べ床面積が約二・五倍（一〇、五五五㎡）、閲覧席数が約二倍（四一〇席）、収蔵可能な蔵書数が三倍以上（一一〇万冊）と大きく規模を拡大します。

四月には建物が建設業者から県に引き渡され、六月十一日（月）からは、現在の図書館も休館して蔵書の移転等を行います。

すべての準備を終えて新しい図書館が開館するのは、この秋、十一月十一日（日）の予定です。また、新たなスタートに当たって、館長には、直木賞作家で国立国会図書館に勤務された経験をお持ちの阿刀田高氏をお迎えし、図書館の提供するサービスを一層充実させ、本県の文化の拠点としての機能を一層発揮できるよう職員一同力を合わせて参ります。

◆施設の特徴

図書館は、本と人を結び付け、得られた知識を通して人と人を結び付けていきます。

新県立図書館は、それぞれの人が必要としている知識や情報を得るための蔵書やサービス

充実させ、同時に、様々な県民活動が行える場としての機能も拡充しています。建物の設計では、こうした図書館の役割を実現するために多くの工夫を行っております。

施設は閲覧エリア、交流エリア、保存エリア、事務エリア、その他のエリアと区分されています。

閲覧エリアは、資料や情報を利用し読書や調べ物をするための機能が集中しており、図書館資料の利用をサポートします。



交流エリアには、機能や大きさが異なる部屋を設け、様々な目的を持った方々の、多様な活動の場として利用できるようになっていきます。また、保存エリアは、図書館資料を収蔵し、保存するための場所となります。

このうち、利用者が主に利用する閲覧エリアと交流エリアは、なるべく仕切りの壁を無くして、読書や調べもの、研修会や講演会等の活動が、互いに刺激し合い、新しい知的な生産につながっていくような空間として設計されています。

また、交流エリアの各室や、閲覧エリアのサイレントルーム等の諸室は、壁面にガラスを多く用いて内部の様子がわかるようにし、施設全体を開放感のある空間としています。

◆フロア構成

（1階）

総合案内、新聞・雑誌コーナー、視聴覚ブース、パソコン席等があり、多様なメディアで情報を得ることができます。また、児童資料コーナーは、子どもたちへのサービス窓口であると同時に、新たに、司書やボランティア等子ども読書活動に関わる人達の活動の拠点となる「子ども読書支援センター」としての役割を担います。

また、イベントや展覧会等、多くの人を対象にした多様な催しに使えるイベントスペース、グループ学習やサークル活動等様々な用途で利用

作家 阿刀田高氏が新館長に



新しいコンセプトの施設で運営の中心となる図書館長には、直木賞作家で同賞の選考委員を務める阿刀田高氏をお迎えすることとしています。阿刀田氏は、多くの短編小説や、古今東西の古典を独自の視点で紹介した随筆等、多数のベストセラーを生み出す人気作家ですが、国立国会図書館の職員として勤務した経験もあり、幅広く読書や出版文化についても活発に発言しています。

新県立図書館では、阿刀田氏をお迎えし、図書館の運営面の充実、サービスの向上に努めるとともに、館長自らの講演会や読書推進のイベントなども開催して参ります。

できる交流ルームを設置します。交流ルームのうち2室は、防音となっており、子ども達のイベントや楽器の練習も可能です。これらは、室内の活動が外から見えるオープンなつくりとすることで、人々の交流を促す効果を持っています。

〈2階〉

幅広い分野の図書や、山梨に関係する資料を集めたメインの閲覧エリアが広がります。レファレンスデスクを設置し、司書が調べものや資料

探しをお手伝いします。静かな環境でじっくり読書や調べものをするための部屋として、独立した閲覧室（サイレントルーム）を3室設けています。交流エリアの多目的ホールは、上映会や講演会、コンサート等に利用できる仕様となっております。一部可動式で約二〇〇席の座席が利用できます。

〈3階〉

全体が、サイレントルームとなります。静かで落ち着いた雰囲気の中で、読書や調査・研究を行うことができます。

〈地下〉

収蔵能力一〇万冊のうち九五万冊を収蔵する書庫は、温度や湿度の変化が少ない地下に設け、県民の財産である図書館資料を保存します。特に取り扱いに注意を要する貴重な資料を管理・保存する貴重書庫を設置しています。

◆ユニバーサルデザイン

誰もが使いやすい施設となるように、ハードとソフトの両面で様々な対応を行います。建物の内部は段差がなく単純な構造で、利用したい場所や窓口の位置関係がわかりやすく配置されており、シンプルで見やすいサインやピクトグラム（絵文字）等で案内しています。

また、目の不自由な方のためには、フロアやトイレの案内図に触知図を導入し、音声案内システムとあわせてご利用いただけます。建物外

部からは点字ブロックによる誘導で受付まで案内するほか、音声案内による誘導も行います。

二台の利用者用エレベーターはユニバーサルデザイン対応タイプとし、外が見えるシースルータイプで、外からも内部の状況が把握でき、耳の不自由な方でも安心して利用していただけます。さらに各階には多目的トイレを設け、小さなお子さん連れの方のための親子トイレも充実しています。

建物が完成し、四月からは新たな館長をお迎えして、充実した図書館サービスを提供するための準備を進めます。

生まれ変わる新しい県立図書館を、ぜひご利用ください。

■県立図書館休館のお知らせ

新県立図書館への移転と、新館開館に向けた準備作業のために、現在の図書館は6月10日（日）で閉館します。このため、6月11日（月）から新県立図書館が開館するまでの間、ご利用いただけません。

利用者の皆様に大変ご迷惑をおかけしますが何とぞご理解の上ご協力をお願いいたします。

【休館期間】

平成24年6月11日（月）～11月10日（土）

特集 2
高等学校進路指導研究推進校（甲府昭和高等学校）の取り組み
 — 高校教育課 —

高校教育課では、進路指導研究推進校として、平成二十一年度から二十三年度の三年間、甲府昭和高校を指定し、普通科高校におけるキャリア教育の充実に関しての研究を行った。本研究は、山梨県教育委員会で行っている「児童生徒キャリア育成推進事業」の一環としての研究でもある。

研究の概要

平成二十一年度から研究を進め、内容の改善に努めながら、実のある研究推進を心がけてきた。平成二十三年度の研究の概要については、以下の通りである。

(一) 調査研究のテーマと設定の理由

① テーマ

社会的自立を促すキャリア発達を図る

② 設定の理由

自己の能力・適性を把握し、適切な課題を設定し解決する力、他者の考えを理解し集団において適切な行動をとることのできる力が必要であり、これらのキャリア諸能力の発達が社会的自立心に繋がると考え、テーマとして設定した。

(二) 実践項目と方針

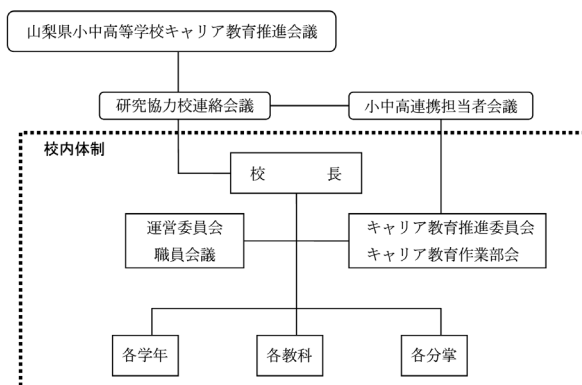
① キャリア発達を促す教材開発と実践

② 全校体制の確立と実施

③ 昭和町立押原小学校、押原中学校との適切な連携

※①から③の各項目を実践する際の方針は、以下の三つである。

- 進路目標と学習意欲の関連
- キャリア教育の視点での学校教育全体の見直し
- 小中高連携との整合性
- (三) 研究体制**



(四) 研究の方法

キャリア教育の全体計画および各学年の年間指導計画に基づき、各行事・企画を実施し、実施ごとにアンケート調査または生徒の感想文、レポートなどの方法によって効果を検証する。さらに、年度末には全校生徒を対象に、アンケート形式の総合的な調査を実施し、諸行事の効果の比較と生徒の意識の変化を検証する。

総合的な学習の時間におけるキャリア教育

一 学年

○キャリアガイダンス
 「未来へ歩きだそう」

- 現代の社会情勢（産業や就業・雇用形態の動向、企業が求める人材）を踏まえて、高校生として望ましい生活や学習態度を理解すること、ただ単に高校生活にとどまらず、その先の将来をも見据えた視点を持つ、すなわち将来設計能力を養う契機とすることを目的として行った。事後アンケートとレポートからは、生徒の良好な反応が伺えた。
- R・C・A・P
 - 二 学年
 - オープンキャンパスへの参加
 - 模擬講義



総合的な学習の時間用教材

（総学ユニット）の開発

甲府昭和高校のキャリア教育の中で注目されるのが、キャリア教育の授業プログラムの開発である。

平成二十三年十一月二日に行われた公開研究会においても、総学教材ユニットを用いた授業を行った。

スライド（プレゼンテーションソフト）により説明、発問、課題提示、映像視聴を進め、生徒は課題についてグループでの討議と発表を行う形の授業であり、特色あるキャリア教育となっている。自主開発の教材は十種類があり、担当者がマニュアルに従って授業を展開できるようになっている。



小中高連携のキャリア教育

山梨県の教育指導重点における重点施策の一つ

である「体系的なキャリア教育の推進」を具体化する取組の一つであり、同じ昭和町にある押原小学校、押原中学校と連携しての取組である。小中高連携のねらいは、次の三点である。

- ① 指導内容の一貫性
- ② 児童・生徒の相互交流による人間関係形成能力の育成
- ③ 教職員の交流による相互理解の深化

小中高連携の平成二十三年度研究テーマは、「自己と他者、社会の理解を通して、児童・生徒の自立を促す」であった。具体的な取組事例は、以下の通りである。

- 小中高連携「駅美化活動」
- 小中高連携「危険箇所マップ作成」
- 小中高連携「ふるさとふれあい祭りでのアンケート調査活動」
- 中高連携「部活動交流」
- 中高連携「中高連携授業」

教科を通じたキャリア教育

甲府昭和高校では、教育活動全体でキャリア教育を推進するという観点から、教科を通じたキャリア教育にも力を入れている。

教科を通じたキャリア教育の目的は以下の三点に集約できる。

- ① 学習内容を通じたキャリア諸能力（基礎的汎用的能力）の育成
- ② 学習方法によるキャリア諸能力の育成
- ③ 学習を通じた習慣の獲得、学習規則の遵守を通じた規範意識の醸成

教科ごとに、キャリア教育の実践目標を定めな

がら、全教員が指導案を作成しながら、授業づくりに取り組んでいる。

学校行事などを通じたキャリア教育

- 看護オリエンテーション
- 山梨で育つ最先端技術
- 山梨大学工学部高大連携講座
- キャリア教育講演会
- 平成二十二年九月二十一日 有森裕子氏 演題 夢の実現に向けて
- 平成二十三年九月七日 吉村作治 氏 演題 夢を実現したい君たちへ君たちのエジプトを見つこう
- 地域研究（まちづくり）
- 地域研究調査
- やまなし地域活性プロジェクト推進事業調査研究部門に参加
- 保育園との交流

三年間にわたる今回の研究は、

- ① キャリア教育の視点でこれまでの教育活動を見直し、捉え直しているという、取組の姿勢。
- ② キャリア教育の詳細な全体計画・年間指導計画に基づいての実践であること。
- ③ 小中高連携のキャリア教育の推進という先進性。

といった三つの点が注目される、実践的な研究であったと言える。

これらの実践が認められ、甲府昭和高校は、本年度、キャリア教育優良学校として、押原小学校、押原中学校とともに、文部科学大臣表彰を受賞した。

いじめ・不登校問題の克服に向けて

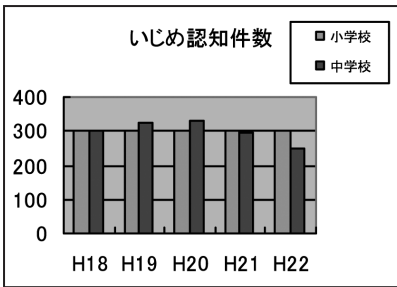
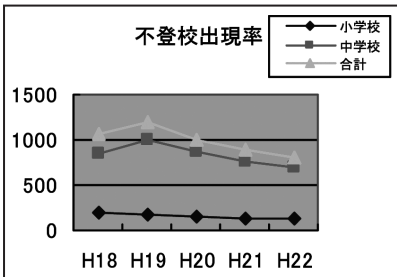
— 義務教育課 —

1 いじめ・不登校の状況

本県では、御承知のように平成十九年度、不登校出現率が全国ワーストとなつてしまいました。

しかしながら、現場の先生方や多くの関係者の努力により、その後は減少を続け、平成二十二年には、不登校出現率が調査開始以来初めて、全国平均を下回ることができました。

いじめに関しては、文部科学省における調査の定義が平成十八年度より変わり、「一定の人間関係のある者から、心理的・物理的攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの」となったことなどから、いじめの認知件数が多くなっています。



不登校やいじめについては、「どの子にも、どのクラスにも、どの学校にも起こりうる」ものとして、未然防止と早期対応が求められるところです。

2 事業の内容

山梨県教育委員会では、いじめ・不登校対策を最重要課題に位置付け、取り組んで参りました。その主な内容を紹介します。

① スクールカウンセラー活用事業

平成二十三年度には、心理の専門家を県内全公立中学校及び小学校三十七校、高等学校六校に配置するとともに、要請に対応する要請訪問事業も行っていきます。特に小学校への拡大・小中連携は、不登校者数減少に大きな効果を上げています。

② スクールソーシャルワーカー活用事業

児童虐待にみられるように、児童生徒を取り巻く環境は、大きく変化してきています。そこで、平成二十年度より、各教育事務所に計十一名の社会福祉士等の資格をもった方を配置し、各学校からの相談を受け、関係機関と連携して、家庭への働きかけを通して児童生徒の心のケアや問題行動等に対応しています。

③ いじめ不登校指導者研修会
「ブリーフセラピー（短期療法）」というカウンセリング手法についての研修会を行い、教員の指導力の向上を図っています。

④ その他

「保護者のための不登校セミナー」や総合教育センターでの「二十四時間電話相談」の実施、適応指導教室「こすもす教室」の開設なども、いじめや不登校の対策として、効果をあげています。全ての教員に対応の手引きとして、県で作成した『いじめ・不登校対応必携』も配付しています。

3 未然防止の観点から

いじめや不登校への対応は、『未然防止』が大きな対策の一つとなります。児童生徒が居場所となるそんな魅力ある学校づくりをこれからも各学校で進めることが大切です。

道徳教育では、『「やまなし」心づくり推進事業』を通して、地域とともに児童生徒の心を耕す取組をお願いしているところです。また、十五年ぶりに『道徳教育用郷土資料集』を改訂・発行します。郷土やまなしを基盤とした豊かな心の育成に役立てていきたいと考えています。

中学校「武道・ダンス」授業の必修化に向けた取り組みについて

— スポーツ健康課 —

◆ 武道・ダンスの必修化について

平成二十年三月の中学校学習指導要領改訂により、中学校保健体育においては、平成二十四年度から、第三学年になるまでにすべての中学生が武道及びダンスを学習することになりました。

このため、中学校保健体育科教員は、すべての生徒に武道・ダンスを指導することとなります。新学習指導要領への移行を円滑に進めていくため、県教育委員会では、次のような取組を進めて参りました。

◆ 武道・ダンス必修化 地域連携指導実践事業の推進

(平成二十二年～二十三年 実施)

○ 地域連携推進協力者会議

武道・ダンス必修化に的確に対応するため、大学の有識者、関係競技団体の役員等を構成メンバーに委嘱し、審議を重ねてまいりました。

各委員からは、施設・用具のハード面の整備について、学校ごとに実施予定の種目や整備状況も違うことから市町村の教育委員会の対応に必要な情報を提供する必要があり、また、保健体育科教員の指導に対する不安の声が多いといったソフト面に対して、安全な指導や指導方法に対する講習会の実施や指導資料を提示していく必要があること等の意見がありました。

◆ 武道・ダンス研究委員の取組

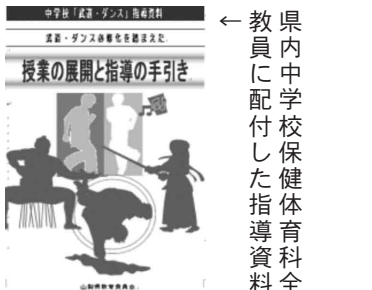
地域連携推進協力者会議で指摘された課題を解決するために、武道・ダンスの研究委員会を組織し、指導経験の浅い教員にわかりやすく、生徒の安全に留意した指導や配慮ができることを目指し

て指導資料の作成に取り組みました。

その成果として、平成二十三年三月に、「武道・ダンス必修化を踏まえた授業の展開と指導の手引き」を、県内中学校保健体育科全教員に配付しました。

また、平成二十三年度には、「指導の手引き」の内容を映像化することに取り組み、平成二十四年二月に、指導用DVDを各校に一部配付しました。

この「武道・ダンス必修化を踏まえた授業の展開と指導の手引き」と指導用DVDを基に、中学校保健体育科全教員により、安全で一貫性のある武道・ダンスの指導が行われることを期待しております。



◆ 研究実践校による地域指導者との連携

地域の武道・ダンスの専門的指導者を授業に導入し、担当教員とのチーム・ティーチングの在り方、地域との連携についての実践研究を次の四校で実施しました。

☆山梨市立山梨南中学校（柔道）

…地域の退職した高校保健体育科教員

☆韮崎市立韮崎西中学校（ダンス）

…地域のダンス指導者（教員免許有）

☆南アルプス市立八田中学校（剣道）

…地域の剣道の有段者（連盟指導資格有）

☆上野原市立秋山中学校（相撲）

…地域の高等学校教員（相撲部顧問）



◆ 武道・ダンス実技指導者講習会

武道・ダンスの必修化に対応するため、県内中学校保健体育科全教員対象に、武道（柔道、剣道、相撲のうち一種目）・ダンス実技指導者講習会を悉皆で実施し、教員の指導力向上に努めました。

◆ 今後に向けて

以上のように、武道・ダンスの必修化に向けて取り組んできましたが、保健体育科の目標である「生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質や能力を育てる」ために、さらに研究を続け、教員の指導力向上と授業の充実に向けた支援を行っていく予定です。

知られざる山梨県立博物館の活用法!

— 県立博物館 —

はじめに

博学連携を目玉に建設された山梨県立博物館も平成二十三年十月で六周年を迎えました。博学連携とは読んで字の通り「博物館と学校との連携」を意味しますが、見学だけではない博物館の活用方法をご存知でしょうか？

活用の仕方あれこれ

- ① 博物館見学
- ② 貸出教材 (ミュージアム・キット)
- ③ 出前授業 (講師派遣)
- ④ ティーチャーズクラブ
- ⑤ 職員研修

今回は、従来から進化した部分 (右の①〜③の三点) を中心にPRをいたします。

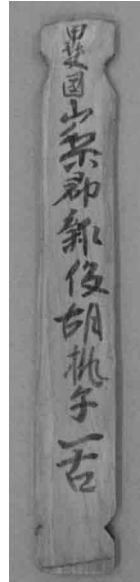
【博物館見学の充実】

○ 小学校、低・中学年用のワークシートを開発しました。今年度の二学期より、ほとんどの学校で使用していただき、児童や先生方にも好評でした。内容は、小学三年生で学習する「昔の道具とくらし」に焦点を当てたものです。

○ 今年度中に、館内の「歴史の体験工房」という遊びながら歴史が学べるコーナーをリニューアルします。昔の道具類も充実する予定です。

【新しい貸出教材 (ミュージアムキット) の追加】

来年度より、新しい貸し出し教材 (ミュージアムキット) として「木簡」四点が加わります。奈良時代の甲斐国に関する木簡のレプリカで、解説付きです。実際に手にとってさわることできます。



【出前授業のパッケージ化】

博物館では笛吹市と「博学連携モデル事業」を締結し、今年度と来年度の二年間、一宮西小と石和東小の二校にモデル校となっていたが、新しい博物館の活用方法を研究しています。

その成果として、小学三年社会「昔の道具を体験しよう」と小学六年社会「山梨県の歴史」の出前パッケージ授業を開発しました。出前授業を受けた児童の感想を紹介します。

〈一宮西小三年 社会「昔の道具を体験しよう」〉
 ○ 普段、さわったり、しよってみたりすることができない物を持ってきてくれて、実際に体験させてもらいありがとうございました。

○ 昔の人の知恵はすごいと思いました。いろいろな物をすごく大切にしていたことがよく分かり

ました。今の時代とはまったく大違いでした。考えてみると昔は今よりエコって感じたと思いました。



〈石和東小六年 社会「山梨県の歴史」〉

○ 山梨県の歴史について、いろいろと知ることができ良かった。

○ 今わたし達の住んでいる山梨には、びっくりするほど深い歴史がいっぱい詰まっていると思うと、早く博物館に行きたくなった。山梨に誇りと愛着をもって、この土地に住みたいと思った。

おわりに

県立博物館では、ここで紹介した二例だけでなく、県内の歴史にかかわる様々なテーマで出前授業を行っています。小学校だけではなく、中学校・高校でも、おおいに活用してください!

詳細については、当館のホームページをご覧ください。

西高あーと展の開催について (夢をはぐくむ体験活動サポート事業)

— 県立甲府西高等学校 —

はじめに

芸術教科における教育活動は、生徒による①構想②制作③発表の段階を経て評価をしていくことを理想としています。中でも③の発表についての機会を設ける事により、制作を充実させ、自らの力で発信する喜びを味わうことが大切だと考えます。また、教員や保護者、音楽・美術・書道の選択者以外の生徒たちが鑑賞することで「感動」を共有する機会を増やすことを目指しています。

西高あーと展のコンセプト

「西高あーと展」は平成十七年にスタートし、今年で七回目を迎え、学校行事として定着してきました。今年のテーマに、「幸せを実感し、未来をデザインすること」を掲げました。美術・書道科目選択者の展示、音楽科目選択者による音楽発表会に加え、文化部の参加を企画しました。生徒たちが、芸術活動による感動を体験することによって、それぞれの未来を前向きに生きて行くきっかけにしてほしいと願っています。

また、生徒たちが授業で学び、成長した姿や、高校生の高い感性と創造力を、地域を含め多くの方々に知っていただきたいと考えています。

平成二十三年度の発表内容

○美術科

一年次制作のテーマは、「油彩・学校風景と自画像構成」、「ロゴマークデザイン(私ブランド)」、「透視図法・椅子のデザイン」、「抽象表現(私の宝物)」。

二年次は、一年次に制作した、「油彩・自画像」「透視図法・居住空間(私の理想空間)」、「油彩・近代」現代絵画の模写」などです。

一年次作品数二二〇点。二年次作品数二二〇点。

○書道科

一年次は、「蘭亭序の臨書(行書)」、「創作(自分のそばにおきたい言葉)」。

二年次は、「一年次に制作した、「うちわ(自作の俳句・川柳など)」です。一年次作品数二二二点。二年次作品数二一六点。

○音楽科

プログラムは、①斉唱・一年「校歌」、「少年時代」、「風になりたい」、「Cano mio ben」②ソプラノ独奏・一年 ③バリトン独唱・一年 ④フルート独奏・一年 ⑤ソプラノ独唱・二年 ⑥創作と器楽の課題(ジヤズの創作課題) ⑦マリンバ独奏・二年 ⑧ピアノ独奏・二年・三年 ⑨ソプラノ独唱・三年 ⑩テノール独唱・三年 ⑪混声合唱「Mhübel」

「大地賛頌」です。生徒総数一三〇名。

○各クラブの参加

展示は美術部・書道部・写真部・放送部が参加。各大会の参加作品や書道パフォーマンスなどで制作した大作の展示、放送部の番組を上映しました。

音楽発表会は、音楽部による合唱、吹奏楽部によるアンサンブルや独奏のほか、卒業生(東京芸術大学・声楽専攻)による演奏がありました。

運営について

芸術科教員、研究情報部職員と美術部・書道部・吹奏楽部の顧問・生徒が企画運営の中心となり、一年次生の学年行事としています。

会場は、展示が校内一く三階の廊下やホールを使用し、展示パネル四十五枚と廊下と階段の壁や窓を利用。外のフェンスへは約二〇メートルに渡り展示をしました。期間は十二月二日から二週間。音楽発表は、今年初めてコラーニー文化ホール(小ホール)を利用し、午後一時三〇分から二時間半に及びました。

発表を終えて

総勢四〇〇名近い生徒が参加し、ホールは観客でいっぱいとなるなど、取り組みの成果がみられました。今後も、高い文化レベルの生徒育成を目指して継続していききたいと思えます。

美術・書道の校内展示



音楽発表会の様子



ウクライナの至宝展

— スキタイ黄金美術の煌めき —

— 県立博物館 —

山梨県の母体となった甲斐国は、奈良時代以前

から「甲斐の黒駒」という名馬の産地として知られ、それらが戦国時代に有名な武田騎馬軍団を生み出す土壌となっていました。古代において、馬を飼育する技術は朝鮮半島からの渡来人がもたらしたとされ、騎馬の習慣とともに、そのルーツはるかユーラシア大陸に求めることができます。

ところで、人類が馬にまたがって移動する乗馬はいつから始まったのでしょうか。メソポタミア地域では、紀元前二千年前後になると馬に乗った人物を表現した粘土板が描かれています。当時は馬に腹帯を回し、それに手をかけて馬尻の上の平らな部分にまたがり騎乗していました。その後、木や革製の鞍や手綱をつける轡などの発明によって騎馬の技術は格段に進歩したものと思われ、ユーラシアの草原部にこうした騎馬関係の証拠が急激に増えだすのは、紀元前九世紀〜八世紀のスキタイ系文化が登場して以降のことでした。

世界最古の騎馬遊牧民といわれるスキタイは、現在のウクライナ国にあたる黒海北岸の草原地域を中心に勢力を持っていた民族です。

ギリシアの歴史家ヘロドトスによれば、スキタイは農耕を行わない純粹の遊牧民で、家畜とともに移動し、定住する町や集落を持たない人々であること。弓矢に優れ、男子は全員が騎馬戦士であること。その戦術がきわめて機動性に富んでいる

ことなどの特徴を記しています。

「草原のピラミッド」とも言われる彼らが残した古墳から出土する副葬品には、スキタイ独自の動物模様をあしらった金製の剣やゴリュトス（弓矢入れ）、リュトン（角杯）や首飾りなど多くの黄金美術があり、現代人をも魅了するような芸術性豊かな文化を知ることができます。また、それらの文物には西方のギリシアや南方のペルシア、東方の中国からの影響などがみられます。東西にまたがる広大な地域間交流の足跡は、スキタイ系文化がまさにユーラシアを駆ける騎馬民族の文化であったことを私たちに語りかけてくれます。

山梨県立博物館では、騎馬文化のルーツを求めて、遠く黒海北岸の草原地帯に花開いたスキタイの騎馬民族と黄金文化を含む、一九世紀にいたるまでのウクライナの至宝と歴史を紹介します。

○主催

山梨県立博物館・テレビ山梨・ウクライナの至宝・スキタイ黄金美術の煌めき実行委員会

○開催期間

平成二十四年三月十七日（土）〜五月七日（月）

○場 所

山梨県立博物館（笛吹市御坂町成田一五〇一一）

○観覧料

一般／一〇〇〇円、高校・大学生／五〇〇円、小・中学生／二六〇円

※常設＋企画共通券、各種割引等あり。

詳しくはお問い合わせください。

○主なイベント

・記念講演会「スキタイ黄金美術と動物文様」
講師 林俊雄先生（創価大学文学部教授）
四月十五日（日）午後一時三〇分〜三時、
県立博物館生涯学習室にて

・ウクライナの歌姫ナターシャ・グジーコンサート
三月二十四日（土）午後二時〜三時、
県立博物館ロビーにて

○お問い合わせ

県立博物館 電話 〇五五―二六一―二六三二
FAX 〇五五―二六一―二六三二



胸飾り 紀元前4世紀（複製）
ウクライナ歴史宝物館所蔵

ミュージアム甲斐・ネットワーク

～県内博物館等の連携による活動の活性化と利用者サービス向上を目指して～

— 学術文化財課 —

県内の美術館、博物館等が、相互に連携して活性化を図り、活動の充実や利用者へのサービスの向上を目指す「ミュージアム甲斐・ネットワーク」会員施設の紹介をします。

須玉美術館 (北杜市)

巖倉、宇治山哲平、大森運夫など、主に日本の現代作家の作品を収蔵・展示しています。中でもオノサト・トシノブ(1912～1986)の作品(油彩・水彩・版画)は日本有数のコレクションを誇ります。オノサトは日本の抽象絵画のパイオニアであり、ヴェネチア・ビエンナーレに2回連続選出されるなど、世界的に高い評価を得、「真昼の絵画」とも称される“丸”をモチーフとした明るい色使いの作品が、見る者に強い感動を与え続けています。

ともすると「難しい」と言われがちな抽象絵画ですが、当館ではオノサトの造形思考を分かりやすくビデオで解説しており、理解を深めていただけます。

また、様々なジャンルの地元作家を紹介する企画展、銅版画教室なども行っています。

住 所 北杜市須玉町若神子4495-18
電話番号 0551-42-5007
休 館 日 4～11月/月・火曜日、12～3月/冬季休館
入 館 料 一般700円 高大生500円
 小中生300円(各種割引あり)
駐 車 場 大型バス4台、普通車22台、無料
<http://sukui.jp/sutamamuseum>



外 観



内 観

歌舞伎文化公園 (市川三郷町)

市川團十郎のゆかりの地として有名な市川三郷町では歌舞伎文化の振興を目的にこの公園を開設しました。この公園内にはかつてこの上野地区にあったとされる上野城を再現したふるさと会館、歴代市川團十郎の資料が展示されている文化資料館、本町の歴史や出土した土器などが展示してある考古資料室や歌舞伎公演が可能な多目的ホールなど様々な施設があります。

4月下旬頃には市川家の替紋である牡丹が園内を彩り、約2000株が咲き誇ります。この時期には「ぼたんの花まつり」も開催されます。

住 所 山梨県西八代郡市川三郷町上野 3158 番地
電話番号 055-272-5500
休 館 日 月曜日・祝日の翌日
 (月曜日が祝日の場合はその翌日)
 /年未年始(12月29日～1月3日)
開館時間 午前9時～午後5時(受付時間は4時まで)
入 館 料 大人500円(400円) /小・中学生250円(200円)
 ※カッコ内は20名以上の団体料金
 ※民俗資料館は、別途料金100円となります。
駐 車 場 普通車 約150台 大型可、無料



ふるさと会館



ぼたん園



らくがき

七輪の魅力
澤谷 情

「七輪点火！」週末の夕方になると、近所の仲間にメールを送ったり、この文面のメールが届いたりする。春から秋にかけて、週末の多くは、近所の仲間と七輪を囲んでいる。4世帯の家族全員が参加するのでかなりの人数になるが、それでも七輪は二つしか出さない。二つで十分だからだ。各自食べたい物を持参し、あるものをみんなで食べる。

普段は3人暮らしの我が家も、週末の夕食は、大家族。七輪に魚やソーセージ、野菜と何でものせて焼くのだが、焼けるまでの時間がなんとともスローで、この間に話に花が咲く。子どもたちのことや最近の話題など、話はつきない。スローフードだが、楽しい時間はあつという間に2時間、3時間と過ぎていく。バーベキューとは異なり、がつがつ食べたり、焼くのに一生懸命になったりもしない、実にまったりとした食事ができるのが七輪の魅力である。片付けは早く、5分で会場の全てを片付け終わられるのも、魅力的である。今では各家庭に七輪があり、特に順番があるわけではないが、点火メールが先に届けば、そこに集まる具合だ。

私は、七輪を囲んでくつろげる環境にあり、恵まれているということもあるが、これを読んでくれた皆さん、休みの日には、まずは家族で七輪を囲んでみてはいかがですか。焼くのも楽しい、食べてもおいしい、そして、待っている間にぎゅというんな話もできると思います。スローな時間をぜひ体験してみてください。とてもいいもんですよ。

(市川三郷町立市川小学校)

復興
森 秀昭

昨年3月11日の東日本大震災により、地震や津波、防災、エネルギー問題など、私たちの災害への考え方は大きく変わりました。

7月末、私がボランティアとして訪れた仙台市立高砂中学校では、学校生活がいつも通り行われていました。しかし、海岸に近いこの学校では、体育館が被災したままの状態、救済物資として届いたダンボールの山も片付けられずに積まれていました。また、グラウンドは津波の被害で砂がほとんどない状態で、その上、近くの汚水処理場からの臭いも漂ってきていました。

私たちを案内してくださった教育委員会の方からは、被災した直後に、津波から逃げる時に受けた恐怖が、今も生徒たちの心に計り知れない傷跡として残っていることもお聞きしました。

そのような中、生徒や教職員は復興への不安や続く余震への恐怖を抱えながらも、なんとか学校生活を取り戻そうと生活していました。

震災から1年が過ぎ、私たちは日常を取り戻しつつあります。しかし、被災地では今でも多くの支援を求めていることを忘れてはいけません。我々にできることは本当に小さいことかもしれませんが、でも、その小さな「思いやり」の気持ちを被災地へ届け、日本全体で継続的な支援を続けていかなければならないのです。昨年の漢字一文字に「絆」が選ばれたように、日本中の誰もが被災地の日も早い復興を祈っています。

(甲府市立北中学校)

まいぶんイベント情報

県埋蔵文化財センター

当センターでは、埋蔵文化財に対する理解と郷土への歴史的認識を深めてもらう場として、例年3月から4月にかけて各種のイベントを計画しております。身近な歴史に触れるまたとない機会ですので、是非足をお運びください。

① 知ろう山梨の歴史! 「山梨の遺跡展2012」

平成23年度中に実施した県内各地での発掘調査並びに整理作業の成果を出土遺物や写真・解説パネルの展示により紹介し、いち早く一般の方々に公開いたします。

会 期：平成24年3月10日(土)～4月8日(日)

(休館日：3/12、3/19、3/21、3/26、4/2)

出展遺跡：山岳信仰遺跡(北口本宮富士浅間神社他)、甲府城跡、寺本廃寺ほか

会 場：山梨県立考古博物館 多目的室

入 場 料：無料 ※ 駐車場あり

② 2011(平成23)年度下半期遺跡調査発表会

平成23年度中に県内で発掘調査された遺跡の中から、特に注目を集めた遺跡について、各調査担当者から映写をまじえながら、わかりやすく説明していただきます。また、出土

遺物の展示も合わせて行います。

日 時：平成24年3月17日(土) 13:00～16:10

発表遺跡：諏訪原遺跡・屋代氏館跡、上中丸遺跡、三ノ側遺跡、西街道小森遺跡、穴山氏館跡

会 場：帝京大学山梨文化財研究所大ホール

入 場 料：無料 ※ 駐車場あり

③ 「発掘された甲府の城下町」展 ～甲府城と城下町～

甲府城をとりまく城下町を中心に、その位置や歴史を紹介しながら発掘調査で明らかとなった武家屋敷などでの生活について紹介いたします。また、特別展開催中、4月8日(日)に記念講演会「甲府城下町探訪～地下からのメッセージ～」を行います。

会 期：平成24年4月6日(金)～4月15日(日)

会 場：舞鶴城公園稲荷櫓

入 場 料：無料

◆お問い合わせ先 県埋蔵文化財センター

電話：055-266-3016 FAX：055-266-3882

HP：http://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/

コース制による高等部教育スタート！

県立かえで支援学校

本校は、山梨県下における知的障害養護学校（現特別支援学校）の適正配置を図るため、平成13年度に甲府市東光寺（第一商業高等学校跡地）に開校しました。知的障害を主障害とする児童生徒を対象として小学部・中学部・高等部を設置し、本年度で11年目になる特別支援学校です。初年度の児童生徒数は89人（小学部32人、中学部17人、高等部40人）でしたが、その数は年々増加し、本年度は240人（小学部62人、中学部57人、高等部121人）が在籍しています。

平成24年度には、教室の不足や大規模化の解消を図るため、山梨園芸高等学校の旧校舎を活用して分教室が設置されます。分教室には高等部における職業的な自立をめざした【職業実践コース】を設け、新たに編成した教育課程による教育

実践に取り組みます。また本校における高等部教育は、これまでの教育課程を継続・発展させた【生活・社会基礎コース】として再編成し、さらなる充実をめざしていきます。

在籍する児童生徒の障害の状態は多様化しています。関係機関との連携などにより「個別の教育支援計画」等を作成・活用し、一人一人の教育的ニーズに応じた教育の実現に取り組んでいます。

本校は、地域の方々や小学校・中学校との交流及び共同学習を盛んに行っています。また、自主通学する高等部生徒も増加し、登下校時などには地域の方々との日常的なふれあいが生まれています。地域にある特別支援学校として、これからも「開かれた学校」をめざしていきます。



【かえで祭の舞台発表】中学部1年



【授業風景】高等部

地域から学ぶ ～閉校の年を迎える中で～

上野原市立柗原小学校

沿革誌を紐解くと、本校は、かつては3つの分校があり、700名余りの児童が在籍したこともあったが、本年度末で閉校となる。

学校のある地域は長寿の里として全国的に名をはせた地域であり、地域の方々の学校に対する愛着は深く、学校教育に対して大変協力的である。この地域の素材や人材を活用しての教育が本校の特色といえる。

今年が明治7年以來の歴史に幕を下ろす最後の年である。子どもたちが生まれ育った地域にさらに目を向け、地域を再認識したり再発見したりすることを通して、地域に誇りをもってほしいと今まで以上に願いながら、子どもたちと一緒に活動をしてきた。

そして、地域を大切に思い、そこで育った自分に誇りをもち、統合後の生活に前向きに自信をもって取り組んで欲しいと願ってきた。

郷土学習の場として位置付けた一つに、毎年行われている学習発表会「ゆずっこの日」がある。当日、たくさんの地域の方々や保護者が参観する中、地域に伝わる伝統芸能「獅子舞」、学校の歴史、長寿の里柗原の食文化、昔の子どもたちの学校生活、昔の遊び等々を創意工夫しながら発表した。会場にいる全員を巻き込み、秋の一日を楽しんだ。

校歌にこんなフレーズがある。「…ふるさとの遠い歴史をゆずり葉のゆずり伝えて…」

3月10日（土）、閉校記念式典が開催される。



ゆずっこの日①「ふるさと」を歌う



ゆずっこの日②「昔の遊び」に興じる

総合教育センターのホームページを活用しましょう！

— 総合教育センター 情報教育部 —

総合教育センターにある膨大な教育情報資産を教育現場で有効活用してもらうために、ホームページを一新しました。

「研修」に関する情報提供や申し込み、「調査・研究」の結果や成果に関する情報提供、また指導案や授業素材を提供する「授業支援」、教育相談や特別支援教育に関する情報を提供する「相談支援」は、整理し検索しやすくするとともに、今まで以上に内容を充実させました。

更にセンターの持つ6万件以上の教育情報にアクセスできるコンテンツデータベースや県内の教職員であればいつでもどこでもメールが読み書き

できる「プラムメール」、文書交換システムである「ピーチウェア」など、教職員の皆様に有用なサービスを提供しています。また教育関係の最新情報を提供するために、メールマガジンを発行しています。

○コンテンツデータベース

センターの持つ情報資産は、データベースに登録されているもので、およそ6万件あります。その内訳は、教材・指導案等が5,000件、教育図書が14,000件、文献・紀要類が40,000件、教育用ソフトウェア・ビデオソフト類が1,000件です。教材・指導案等及びセンター研修主事による調査・研究の成果はデジタル化しセンターのホームページからいつでも参照できます。図書・文献及びソフトウェア類は、ホームページから一次情報を検索し、ライブラリーで閲覧・体験できます。なおプラムメールアドレスをお持ちの先生は図書を借りることもできます。

○プラムメール

プラムメールアドレスは、山梨県の教職員であれば誰でも取得できる県教育委員会が発行する公的なメールアドレスです。

退職するまで使用できます（異動に関係なく使用できます）

・世界中どこからでもアクセスできます
 ・独自のメールアドレスリストを開設できます
 ・メールマガジンへ登録できます
 またセンター所有の図書貸し出しIDとして使用できます。

○メールマガジン（メルマガ）

今年の1月より登録された先生方へ次の内容をメルマガとして配信しています。

- ・センターや県教育委員会からの最新情報
- ・県内外の教育に関する催しの情報
- ・新着図書・資料の案内

また学校現場で役立つ工夫などをシリーズで連載しています。登録すると過去のメルマガも閲覧できます。是非この機会に、プラムメールアドレスの取得とメルマガへの登録をお願いします（センター日より103号を参照してください）。

これからも当センターホームページを使いやすく、充実したものにしていきたいと考えています。ホームページに関するご要望やご意見等は当センター情報教育部へご連絡ください。

総合教育センターホームページ

URL <http://www.ypec.ed.jp/>

用できます



◇ 山梨県の寺について調べる ◇

レファレンスの道具箱



山梨県立図書館

参考図書で調べる

規模の大きな寺、有名な寺である場合は、調査研究室にある全国の寺院が載った参考図書を調べると概要がわかります。

『日本名刹大事典』（雄山閣出版 1992）

山梨県全域から調べる

県内の主な寺院を写真とともに紹介する資料が各種あります。また、1868年に県下の神社・寺院から提出された由緒書をもとにした『甲斐国社記寺記』では、当時の状況を知ることができます。

『定本・甲斐百寺 その歴史と文化』（郷土出版社 1996）

『甲斐百八霊場 改訂版』（テレビ山梨 2005）

『甲斐国社記寺記第2巻～第4巻 寺院編』（山梨県立図書館 1966～1969）

『「甲斐国志」「寺記」所載寺院索引（稿）』（秋山敬 2004）

地域から調べる

各市町村で作成された市町村誌の大半には、地域内の寺社を紹介する項目があり、小さな寺院まで記述しています。また地域の文化財として紹介した資料や、観光スポットとして紹介した資料も作成されています。

『増穂町誌 下巻』（増穂町 1976）

『都留市の歴史散歩』（都留市教育委員会 1984）

各寺史で調べる

記念行事の際に刊行されたものなど各寺の歴史についてまとめられた資料もあります。

『身延山史』（身延山久遠寺 1973）

『一蓮寺概史』（一蓮寺 1984）

『甲斐の法泉寺』（武田勝頼公400年大遠忌奉賛会 1984）

『恵林寺の文化財と歴史』（信玄公宝物館 2000）

『甲斐善光寺 浄土宗 山梨歴史美術シリーズ3』（山梨歴史美術研究会 2009）

寺の建築について調べる

重要文化財などに指定された貴重な建造物が修理または解体された時に作られた調査報告書は、工事概要や写真、図面などがまとめられ、詳しく調べることができます。また、各自治体は施設の保存のため様々な調査を行っており、内部構造がわかる調査報告書もあります。

『国宝清白寺仏殿修理工事報告書』（国宝清白寺仏殿保存会 1958）

『山梨県史 文化財編』（山梨日日新聞社 1999）

※ 今回紹介した資料以外にも関連資料を所蔵しております。ご利用ください。

山梨の文化財

県指定無形民俗文化財

内船歌舞伎 (南巨摩郡南部町内船)

(平成二十三年十二月一日)

内船歌舞伎は、南巨摩郡南部町内船地区に江戸時代から伝わる地歌舞伎である。かつて地歌舞伎は、県内各地で盛んに上演され、近村からも見物人が参集して人気を博した。内船地区には、上・中・下の各組に座があり、地区を挙げて歌舞伎の上演・伝承に取り組むなど、県内で最も歌舞伎が隆盛していた地域の一つであった。下の座は早くに途絶し、中の座も昭和三十年代半ばには途絶したが上の座が「内船歌舞伎」として現在まで活動を継続している。県内の地歌舞伎が、戦後途絶していった中で伝承例が少ない歌舞伎の一つとして存続しており、昔からの多数の演目を伝えるとともに、毎年演し物をかえて上演するなど積極的な伝承への取り組みが行われている。



また、地元小中学校の児童・生徒に歌舞伎を教え、「子ども歌舞伎」として毎年上演するなど地域の子どもたちが伝統芸能を通じ、地域の文化を認識する機会となり、次世代への継承にも繋がっている。上演は、毎年十二月の第一日曜日に南部町文化ホールで行われる。

主な行事予定

県立美術館

特別展

「マリー・ローランサンと東郷青児」

4/28～6/24

県立博物館

企画展

「ウクライナの至宝展
スキタイ黄金美術の煌めき」

3/17～5/7

県立考古博物館

企画展

「山梨の遺跡展2011」

3/10～4/8

県立文学館

企画展

「石川啄木 愛と悲しみの歌」

4/28～6/24

「躍動の5世紀～古墳時代中期の山梨～」

4/28～7/1

表紙を飾る



県立日川高等学校

2年 芦田 有理

作品タイトル
「景子」

友人と駝鳥と、私の好きなものを描きました。全体の構図や雰囲気は最初からかなり明確に決まっていて、おおよそそのとおりにできています。

絵本のような少しシュールな感じにしたかったので、背景は明るく暖かく、人物など近くものは青っぽく暗く描きました。水の中の小物を一番細かく描いたのですが、一部は反射した光で隠れてしまって、それが少し残念です。かなり時間をかけて描いていたので良い経験になったと思います。

指導者：県立日川高等学校 教諭 天野 圭

「声かけ あいさつ」みんなで実践!!

- ◆教育に関する疑問、質問等がありましたらお気軽に E-mail 又は FAX して下さい。
アドレス：kyouikusom@pref.yamanashi.lg.jp FAX：055 - 223 - 1744
- ◆教育やまなしのバックナンバーがインターネットでご覧いただけます。
URL：http://www.pref.yamanashi.jp/kyouiku/46150769857.html